

希望に抱かれて
コロサイ人への手紙第1週
ポー・スターン・ブレイディ
2024年・2月・4日

黒人歴史月間

コロサイ人。このような美しい本には、私たちが言いたい言葉が詰まっていますが、実際にそれを所有するのは難しいと感じることがあります。それは「希望」です。コロサイ人は希望というテーマ、それが何であるか、そしてそれがどこにあるのかというテーマに何度も立ち戻ります。これはコロサイ市の教会の比較的新しい信者のグループに宛てた美しい手紙です。

次の8週間はコロサイ人を体験する2つの方法があります:

- 1) 繰り返し: 8週間にわたって毎週手紙をすべて読みます。
- 2) 節ごとに: 8週間、毎日3節ずつ読みます。

聖書の一冊や手紙の研究を始めるとき、誰が、どこで、いつ、なぜという基本的な質問から始めたいと思います。

最初の詩はそれらの答えの多くを与えてくれます:

”神の御旨によるキリスト・イエスの使徒パウロと兄弟テモテから、コロサイにいる、キリストにある聖徒たち、忠実な兄弟たちへ。わたしたちの父なる神から、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。”

コロサイ人への手紙 1:1-2 口語訳

その手紙はパウロとテモテによって書かれています。パウロは、ダマスカスへの道でイエスが迎えに現れたとき、地面に叩きつけられ、光で目が見えなくなった人物です(参照)。テモテはパウロが指導している若い牧師です。私は、ポールがこの手紙の共著者として彼を称賛しているところが大好きです。これはこの時期にあまり行われたことではないので、ポールの謙虚さが表れていますが、同時に彼が将来を見据えていることも示しています。彼がテモテを「私たちの兄弟」と呼ぶ方法は、彼に名誉と敬意を与え、また、この手紙を読んだり聞いたりする人たちにテモテに即座の信頼を与えるために彼自身の評判を利用するものでもあります。「私はティモシーを信頼しているので、あなたもティモシーを信頼してください。」

この手紙は刑務所から書かれているが、学者らはどちらからコロサイの教会に宛てたのかは不明である(2024年1月7日の参考メッセージ)。

コロサイ(歴史)。

手紙はティキコスによって書かれ、届けられます。ティキコスは、パウロの様子を教会に知らせるよう指示を添えてやって来ます。「ティキコスは私に関するすべてのニュースをあなたに伝えます。」興味深いのは、パウロが手紙の中にこのことを書かなかったことです。彼の焦点は明らかです。この手紙は彼に関するものではありません。教会は彼のものではありません。手紙はイエスについてのものであり、教会はイエスについてのものです。

パウロはコロサイのクリスチャンを「キリストにある忠実な兄弟姉妹」と呼んでいます。この教会に対する彼の愛情が彼のペンとページににじみ出ています。そして彼はこう言います、「私たちの父なる神から恵みと平安があなたにありますように...」。彼は自分の使命とこのメッセージのトーンを「恵みと平和」と定めています。すべては恵みから始まり、2節でパウロはすでにイエスについて3回言及しています。コロサイ人への手紙のページはイエスで溢れるでしょう。イエスこそが「なぜ」なのです。この本はキリスト論的であり、イエスがまさに中心にいるという意味です。すべてが彼の人生、彼の十字架、彼の力、彼の愛、彼の善良さ、彼の希望、彼の栄光に焦点を当てています...イエスがこの手紙全体の中心であり目的です。いくつかの教義、いくつかの倫理、いくつかの終末論がありますが、この手紙がイエスとは誰であるかについてのものであることは疑いの余地がありません。(先日この本を読んだとき、もし私がイエスのことを聞いたことがなく、自分自身でイエスに出会ったことがなく、コロサイ人への手紙の中でパウロのイエスについての言葉に偶然出会っていたら、そう思いたいと思いました。パウロがこの美しいメッセージの中でイエス・パウロが何を説いているのか知りたいと思っています。そこから次のような質問が生まれます:もし人々が私の人生を通してイエスに出会ったとしたら...彼らはイエスを知りたいと思うのでしょうか?)

つまり、誰が、いつ、どこで、そしてなぜ。さて...何:

”わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している。これは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対していただいているあなたがたの愛とを、耳にしたからである。この愛は、あなたがたのために天にたくわえられている望みに基くものであり、その望みについては、あなたがたはすでに、あなたがたのところまで伝えられた福音の真理の言葉によって聞いている。そして、この福音は、世界中いたる所でそうであるように、あなたがたのところでも、これを聞いて神の恵みを知ったとき以来、実を結んで成長しているのである。”

コロサイ人への手紙 1:3-6 口語訳

(繰り返しますが、彼が私たちの主イエス・キリストに何度言及したかわかりますか。そして、自分が父なる神の子であると私たちにはっきりと語っています。彼は新しく回心した教会に向けて話しています。彼がキリスト・イエスまたは主イエスと言うたびに、彼はそうです。本質的には「王イエス」と言っており、そうすることでイスラエルに、国家としてのイスラエルの物語がイエスの物語の中で成就していると伝えているのです。王、主、支配者、勝者、すべてのボスとしてのイエスに対するこの絶え間ない敬意は、また、深く切り込みます。ローマ帝国の威信。ここに

あるすべての言葉は、世俗的な王国の衝突と崩壊によって動揺している世界において、特に今日においては、イエスの卓越性を示すために意図的に選ばれているように感じられる。）

パウロは、コロサイ人たちの信仰と神のすべての民に対する愛を聞いているので、いつも感謝していると述べています。パウロがよく私たちに思い出させているように、パウロは自分がその一員であるユダヤ人だけでなく、異邦人への宣教者として召されました。イエスの福音に異邦人を含めたのは、イスラエルに取って代わるのではなく、イスラエルを拡大することを意味しています。パウロは、王イエスの救いの恵みと、かつてユダヤ人と異邦人を隔てていた境界を超えた愛への献身によって団結する民を形成し、鍛え上げつつある新しい種類の家族について頻繁に語り、書いています。それがここでわかります。「私はあなたが神の民すべてに対して抱いている愛について聞いています。それは、あなたがたのために天に蓄えられた希望から湧き出る信仰と愛であり、それについてはあなたはすでに福音の真の音信の中で聞いています。」

パウロは著書の中で、信仰、希望、愛という3つの言葉にしばしば立ち戻ります。この手紙の中で「希望」という言葉が初めて登場しましたが、とても美しく配置されています。この希望が彼らがイエスに対して抱く信仰とお互いに対する愛の源であると彼は言います。天国の希望は、彼らを将来への絶え間ない信仰と、現在の高価な愛へと駆り立てるのです。パウロは、彼らを今ここで忠実に生きる希望へと駆り立てるものは何か、とは強調していませんが、それはこの人生が短いという認識なのではないでしょうか。より良いものがやってくると知ること、今、この世界で私たちが直面している問題が大幅に軽減されます。（参照：光と瞬間的な痛み - パウロは私たちの葛藤や苦しみを軽視しているとは思いません - 私たちが満たされた未来に向かってドライブするときに、これらのことがバックミラーに映る日を彼は予見していると思いません）私たちはそれらを違った見方で見ることになるでしょう - そして将来、それらを違った見方で見ることにすると知っていれば、現在それらを違った方法で経験するのに役立ちます。

パウロは彼らの忠実な愛を称賛し、その後、とても素晴らしく興味深いことを言います：

”そして、この福音は、世界中いたる所でそうであるように、あなたがたのところでも、これを聞いて神の恵みを知ったとき以来、実を結んで成長しているのである。”

コロサイ人への手紙 1:6 口語訳

福音は単に彼らの間に存在し、宣べ伝えられているだけではなく、福音は実を結んでいる、とパウロは言います。そして彼は、あなたがそれを聞いて神の恵みを真に理解したその日から、それは実を結んでいると言います。

これで我々は止められるはずだ。これは私たちが悩ませるはずで、それは私を立ち止まらせ、自問するようになりまし。福音、つまりイエス・キリストが十字架につけられ、葬られ、私を救い解放するために復活されたという現実、私の中で実を結んでいるのでしょうか？わた

しを通して？福音のおかげで私の人生から何かが流れ出ているという証拠を見ることが出来ますか？

先週: オンジェは、B4 がガーデンシーズンに入ったと知らせました。庭園は何を生み出すのでしょうか？美しさのための花や植物、あるいは栄養のための果物や食べ物。それは庭園の産物です。オンジェさんの言葉を聞いた翌日に日記に書きました:

神との生活は有機的で美しいものでないと、私たちのやり方は間違っています。これは、システム化され、プログラムされ、ルールに従った契約ではありません。それは風、息、美しさ、香り、色、そして喜びです。それは花嫁が持ち歩くための花束であり、棺に丁寧に置かれたバラです。それは窓辺に置かれた瓶に入った新鮮な果物です...ベリーは孫のためにパイに焼かれました。初めての夏の味です。それは新鮮な土、つる性のジャスミン、熟したトマトの香りです。神の愛の園には生命が溢れており、その生命こそが私たちなのです。私たちは神の世話によって創造されたものであり、神の愛情の対象であり、私たちの世界に対する神の恵みの激しい表れです。私たちは庭からスタートし、それ以来ずっと元に戻ろうと努力してきました。ここにいます。栄光のこちら側ですが、それでも神の庭にあります。美と栄養を切実に必要としている世界に美と栄養をもたらすために、今もここにいます。

パウロは言います。あなたが実を結んでいるのは、すべてはイエスから始まるということを十分に理解しているからです。実りや庭の成長に関する詩的な言葉は私の心を高揚させますが、ポールは続けていくつもの実践的な言葉をそのイメージに結び付けます:

”そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り、主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び、光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。”

コロサイ人への手紙 1:9-12 口語訳

ここでパウロは、神の園の果実がどのようなもので、どのような味がし、どのような香りがするかを定義しています:

1. 神についての知識の中で成長する

これは私たちが教会で最も注意を払っていることだと思います。私たちは人々に神について教えます。私たちは神が善良で賢明で愛情深く強い方であることを教えます。私たちは説教者の話を聞き、メモを取り、最初の頃よりも神についてもっと知っていると感じま

す。しかし、私が主張したいのは、神についての知識が真に高まるのは、実際に現場で体験することであり、ただ単に神の事実を頭に詰め込むことではない、ということです。(ストーリー) 実があるということは、聖書を読んだから昨日よりも主についてよく知っているということだけではありません。実があるということは、私自身の生きた経験のおかげで、昨日よりも主についてよく知っているということです。

2. 彼の輝かしい力に従って、あらゆる力で強化されます。

今日、パワーという言葉は非常に重要な言葉です。それは多くのことを意味する可能性があります。それらのほとんどは素晴らしいことではありません。破壊する力か、構築する力か？他者をコントロールする力か、それとも自分自身をコントロールする力か？ありがたいことに、パウロは「その輝かしい力に応じて」という言葉を付け加えて、実を結ぶ弟子に与えられる力の種類を正確に定義しています。その力。イエスを地上にもたらした力。万物の再生に向けて働くために、私たちの中に生き、歩んできた力。イエスが召使の姿をとることを可能にした力。イエスが十字架に立ち向かうことを可能にした力。彼に召使の姿をとり、人類を自分自身に戻す能力を与えた力。実際、パウロは続けてこう言っています、この力によって、あなたは忍耐と忍耐をもって歩むことができます。忍耐は、信仰、希望、愛が一見不可能に見える状況にもたらすものです。忍耐は、一見不可能に見える人に信仰、希望、そして愛を示すものです。(NT ライト) 私は、2024 年の壊れた世界において、私たちが本当に実を結ぶためには、力とはどのようなものなのか、そしてそれがどのように私たちを強めるのかについての私たちの考えをイエスに改造してもらう必要があると確信しています。

3. 喜びの感謝を捧げます。

喜びと感謝。これは、恵みの福音を真に理解する人の園に生きている果実です。(喜び。)

”神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。”

コロサイ人への手紙 1:13-14 口語訳

宇宙の戦い。私たちには、できるだけ早くできるだけ多くの大混乱をもたらす計画を立てている敵がいます。私たちにはイエスがいて、現在と来るべき時代に希望を与える計画を持っています。この計画は非常に長い間私たちにとって不利に働いてきました。あなたの人生のタイムライン全体を思い描いてみると...おそらく、宇宙の戦いの熱さを感じた明確な瞬間がいくつか見つかるでしょう。あなたは自分の人生のバランスが取れていると感じました。あなたの希望。あなたの喜び。あなたの庭にあるすべての果物。

人生は冗談ではありません。私たちが生きている戦争は熱いです。しかし、もう一度見てください。神は私たちを暗闇の支配から救い出し、愛する御子の王国に私たちを導き、私たちはその御子の中で救い、罪の赦しを得ます。神は私たちを救ってくださいました。神は私たちを救ってくださいました。私たちはもはや邪悪な欲望や邪悪な計画に支配されることはありません。私たちはもはや、邪悪な園の悪い種から実を結ぶことはありません。私たちは救われ、御子イエスの王国に安全に置かれています。

返事

祝祷